



This is SUEKI
—Ancient Vessels. Timeless Forms



This is SUEKI

須惠器



2026 10.3^⑮ - 12.27^⑮

右から 重要文化財 脚付子持壺形須惠器 古墳/飛鳥時代(7世紀) 鳥取県倉吉市上野遺跡出土 国(文化庁保管) | 重要文化財 七連杯付裝飾壺台 古墳/飛鳥時代(6世紀後半) 鳥取県倉吉市野口1号墳出土 倉吉市立倉吉博物館蔵 画像提供:倉吉博物館 | 広島県指定重要文化財 鳥形須惠器 古墳/飛鳥時代(7世紀前半) 広島県安芸高田市一ツ町古墳出土 個人蔵 | 重要文化財 裝飾子持壺付裝飾器台 古墳/飛鳥時代(6世紀後半) 鳥取県倉吉市野口1号墳出土 倉吉市立倉吉博物館蔵 画像提供:倉吉博物館

This is SUEKI ー古代のカタチ、無限大！

1600年ほど前の古墳時代に生まれたやきものSUEKI＝「**須恵器**」。^{す え き}朝鮮半島から伝来した新たな生産技術で始まった須恵器は、その後の日本における陶磁器生産の礎となりました。

須恵器は古墳時代を通して、人々の日常生活や祭祀の場へと次第に浸透していきました。また、古墳時代には古墳で行なわれた祭祀の場、飛鳥時代以降は寺院や藤原京・平城京をはじめとした宮都、古代の役所である官衙^{かんが}など、時代の流れとともに使われる場面も変化し、それに合わせて須恵器も形を変えていきました。さらに、須恵器は東アジアとの交流や日本列島の文化や美意識に合わせて発展を遂げ、多種多様な造形が生み出され、その造形の幅広さからは、古代の社会と古代人の思考がうかがえます。

本展では、古墳時代から平安時代までの約500年間に、全国各地で作られた須恵器の優品を結集し、無限に広がる造形美を紹介しします。各時代、各地域で生み出された洗練されたカタチや独特なカタチなどをご覧いただき、古代の人々の創造力に触れていただけましたら幸いです。

展覧会概要

展覧会名称：This is SUEKI ー古代のカタチ、無限大！

英文名称：This is SUEKI ー Ancient Vessels, Timeless Forms

会 期：2026年10月3日（土）～12月27日（日）※前期・後期で一部展示替えあり

前期 10月3日（土）～11月15日（日）

後期 11月17日（火）～12月27日（日）

休 館 日：月曜日 ※10/12（月・祝）・11/23（月・祝）は開館、10/13（火）・11/24（火）は休館

開 館 時 間：10:00～17:00（16:30受付終了）

観 覧 料：大人1,500（1,200）円、大高生900（800）円、中小生500（400）円、未就学児無料

※新館常設展示室もご覧になれます

※（ ）内は各種割引料金[20名以上の団体、65歳以上の方、当館公式SNSフォロー・登録者ほか]

※土曜日は中小生無料

※障がいのある方、付添者1名は通常料金の半額[証明書をご提示ください]

会 場：東京富士美術館 本館・企画展示室1～4

出 品 点 数：約200件

主 催：東京富士美術館

助 成：美術館連絡協議会、読売新聞社

後 援：八王子市、八王子市教育委員会

What is SUEKI?

日本列島には、1万年を超える長いやきものの歴史があります。その中で須恵器は、縄文土器や弥生土器などに続き、1600年ほど前に誕生しました。

古墳時代、朝鮮半島のやきものである「**陶質土器**」の生産技術が日本に伝わり、須恵器生産が始まります。

「**窖窯**」と呼ばれる丘陵斜面を利用したトンネル状の窯により、1100°Cを超える高温で焼成できるようになったため、丈夫で液体を入れても漏れにくいやきものを作ることができました。また、**ロクロ**という回転する台も使われるようになり、整った形を効率的に作ることができ、洗練された新しい器形がいくつも生み出されました。



- 3 陶質土器 車輪付双口壺 三国時代（5世紀） 韓国・新羅または加耶 個人蔵
- 47 陶質土器 高杯形器台 三国時代（5世紀） 韓国・新羅 岡山県將軍塚出土 個人蔵
- 5 陶質土器 台付壺 三国時代（5世紀中葉） 韓国・新羅 愛知県陶磁美術館（高橋芳子コレクション）
- 14 重要文化財 四耳壺 古墳時代（5世紀） 陶邑窯 大阪府堺市柵225号窯跡出土 堺市蔵 ※前期展示
- 189 装飾付台付壺（部分） 古墳時代（6世紀） 大阪府茨木市南塚古墳出土 京大考古学研究室蔵（大阪府立近つ飛鳥博物館保管）

同じ時代に生産されていた**土師器**と**須恵器**

焼成温度低めの
やわらかいやきもの

火に強い

土器 HAJIKI



1 はじき つぼ
土師器 壺
古墳時代（4世紀）
関東地方出土
愛知県陶磁美術館蔵

再加熱可能だから
煮炊き具として超万能

土師器は弥生土器の系譜を引き、製作技法や焼き方も基本的に共通するため、焼き上がりの様子や淡い橙色を呈する色調も類似します。

胴部には黒い箇所（黒斑）があり、これも野焼きによるやきもので通常見られる特徴です。

水に強い

しっかり焼かれた
かたいやきもの

須恵器 SUEKI



2 ゆうがいたんけいこ
有蓋短頸壺
古墳時代（5世紀前葉～中葉）
猿投窯
岐阜県出土
名古屋市博物館蔵

水が漏れにくいから
貯蔵具として超万能

色調は灰色で、土師器にある黒斑も基本的には見られません。

胴部に施された突線、沈線、波状文からは、**ロクロ**を駆使した様子がうかがえます。
ロクロの導入は施文の正確性・効率性向上にもつながりました。

※出品作品に付した番号は
展覧会図録の作品番号です。



海を渡った技術と文化

4世紀末～5世紀初頭、**朝鮮半島**から**陶質土器の技術**が伝わり、日本産の陶質土器＝「**須恵器**」が誕生しました。この頃の日本列島は古墳時代で、各地で豊富な副葬品を有する古墳が造られていました。古代中国の歴史書や日韓両国の発掘調査の成果から、当時は**人とモノの交流**が盛んであったことが明らかになっています。

初期の須恵器は**朝鮮半島**の技術を元につくられているから
朝鮮半島のやきもの（陶質土器）と見た目がそっくり！



47
とうしつどき たかつぎがたきだい
陶質土器 高杯形器台
三国時代（5世紀）
韓国・新羅
岡山県岡山市將軍塚出土
個人蔵



44
三重県指定有形文化財
たかつぎがたきだい
高杯形器台
古墳時代（5世紀前半）
三重県津市六太 A 遺跡出土
三重県埋蔵文化財センター



7
とうしつどき ゆうがいたいひつぎそうしほち
陶質土器 有蓋台付双耳鉢（部分）
三国時代（5世紀後葉～6世紀初頭）
韓国・加耶
東京富士美術館蔵



26（前期展示）
重要文化財
むがいたかつぎ
無蓋高杯
古墳時代（5世紀前半）
兵庫県姫路市宮山古墳出土
姫路市教育委員会蔵



造形のうつりかわり

5世紀に定着した須恵器は、次第に日本列島各地へ拡大し、陶質土器の形を取捨選択しつつ、日本の文化や生活にあわせて変化していきました。7世紀には社会の変革とともに大きな転換期を迎え、奈良・平安時代に連なる新たな器形が登場しました。また、**仏教文化**の影響も受け、**古墳時代とは異なる須恵器の世界**が花開きました。

はそう
くび
頤は時代が下ると
頸が長くなって細くなる

頤は液体を貯蔵し、胴部に竹筒などを挿して、中の液体を注ぎ出すための孔を備えたもの。葬送儀礼用の器として使用されていました。

5世紀 



84

はそう

頤

古墳時代（5世紀後半）
奈良県明日香村川原寺跡出土
奈良文化財研究所蔵

6世紀 



85

はそう

頤

古墳時代（6世紀）
京都府亀岡市医王谷3号墳出土
亀岡市文化資料館蔵

7世紀 



86

はそう

頤

古墳 / 飛鳥時代（7世紀前半）
奈良県明日香村飛鳥池遺跡出土
奈良文化財研究所蔵

もっと知りたい！

5世紀の頤は体部が大きく、「液体を入れる・貯蔵する」という機能的側面が重視されていたと考えられます。6世紀になると体部は小型化し、口頸部が長大化します。こうした変化は、同時期の別器種にも共通して見られる傾向です。この頃、群集墳と呼ばれる小型の古墳が各地でつくられるようになり、須恵器の副葬品としての需要が高まっていました。頸を長くすることで、供献という行為を視覚的に強調する効果があったと考えられています。しかし7世紀になると、体部はさらに小さく、頸部も細くなり、「液体を貯蔵する」という機能はほとんど失われているように見えます。古墳の造営が減少し、それに伴って葬送儀礼用具の需要も低下しました。その結果、頤はさらに小型化し、次第に姿を消していったと考えられます。

仏具も須恵器でつくる

青銅などの金属でつくられていたのが、奈良時代ごろには、それを模して須恵器でもつくられるようになりました。



法隆寺・百済観音像も
左手でつまんでいます

162（後期展示）

重要文化財

水びょう

水瓶

奈良時代（8世紀）

大阪府堺市光明池60号窯跡出土
堺市蔵



てっぼつ

鉄鉢は僧侶が
托鉢の際に使う器

163

てっぼつがたはち

鉄鉢形鉢

奈良時代（8世紀）

牛頭窠

福岡県大野城市牛頭塚原遺跡出土
大野城市蔵





ハレのうつわ ～古墳時代の祭り～

古墳時代には、**祭りや儀礼**に用いるための**装飾須恵器・特殊須恵器**が多様に作られました。同じ器を連ねたものや小像を飾ったものなどがあり、主に副葬品として**死者を弔う場**で使われた特別な器です。なかには東アジアの影響も垣間見られ、当時の国際性を物語る造形も展開しました。

古墳に納められた特別なやきもの



Beyond the SUEKI



本展最大作品
高さ2メートル越えの
やきものの塔！

7世紀を通じて、古墳時代に盛んに作られた装飾付須恵器や特殊須恵器は姿を消していきました。これは古墳造営の終焉と軌を一にして、社会の変化に伴う須恵器の転換を示しています。

一方、7世紀以降には土馬や瓦塔など、器の機能を超えた新たな祈りの造形が生まれ、祭祀や信仰と結びつきながら須恵器の表現は新たな展開を迎えました。

須恵器はこうした変化を通じ、日本の陶磁器の礎として後世へと技術と創造性を伝えていきました。

古代のやきものの技術
すごすぎる!!!



222
がとう
瓦塔
奈良時代（8世紀後半）
静岡県浜松市三ヶ日町宇志出土
奈良国立博物館蔵

223
どば
土馬
古墳/飛鳥時代（7世紀）
鳥取県米子市蔭田隠れが谷遺跡出土
米子市蔵

見どころ②

文化財指定品が盛りだくさん！

指定品32点を展示し、そのうち12点は重要文化財！（一部前期・後期で展示替えあり。）

もしかや主役？！
小壺のキヤラ
光ってます



187
重要文化財
こもちつぼがたすえき
子持壺形須恵器
古墳 / 飛鳥時代（7世紀）
鳥取県倉吉市上野遺跡出土
国（文化庁保管）

4つのでっぱり、
「耳」という



14（前期展示）
重要文化財
しじこ
四耳壺
古墳時代（5世紀）
陶邑窯
大阪府堺市柁225号窯跡出土
堺市蔵

本作が見られるのは
東京会場だけ！



ちょうけいへい
長頸瓶の王者

157
重要文化財
ちょうけいへい
長頸瓶
古墳 / 飛鳥時代（7世紀後半）
猿投窯
三重県鳥羽市蟹穴古墳出土
東京国立博物館蔵
(Image: TNM Image Archives)

須恵器界のビジュアル系



191
重要文化財
そうしよくこもちつぼつきそうしよくきだい
装飾子持壺付装飾器台
古墳 / 飛鳥時代（6世紀後半）
鳥取県倉吉市野口1号墳出土
倉吉市立倉吉博物館蔵
画像提供：倉吉博物館

朝鮮半島との
関わりが見える



24（前期展示）
重要文化財
ゆうがいたかつぎ
有蓋高杯
古墳時代（5世紀中葉）
兵庫県姫路市宮山古墳出土
姫路市教育委員会蔵

遊環付けた姿は
勇敢ね！



178
重要文化財
ななれんぼいつきそうしよくきだい
七連杯付装飾器台
古墳 / 飛鳥時代（6世紀後半）
鳥取県倉吉市野口1号墳出土
倉吉市立倉吉博物館蔵
画像提供：倉吉博物館

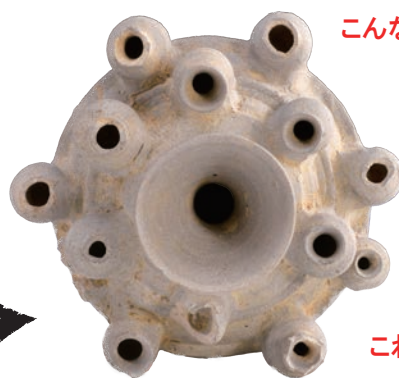
見どころ③

古代の**謎**、未解明なこと盛りだくさん！謎の穴、、、
使い方はいまだ謎のまま、、、

胴部には円窓があげられています。壺の胴部に円窓をあけた須恵器は、愛知県をはじめとする地域でごく稀に見られます。壺部に内容物を入れるには不便のように思えますが、何に用いたか、どのような意味があったかは不明です。

32
まるまどつちいづつぼ
円窓付台付壺
古墳時代（5世紀前葉～中葉）
猿投窯
愛知県名古屋志賀公園遺跡出土
愛知県埋蔵文化財調査センター

上から見ると、
こんな感じ！



これって何に
似てる？

本展最多の小壺と**礎**^{はそう}

一見すると、小壺と礎はランダムに配されているように思えますが、基本的には上段と下段で交互に置かれています。

特異な形をしています、古墳の副葬品としてつくられたものです。



185
こもちつぼ
子持壺
古墳 / 飛鳥時代（6世紀後半～7世紀）
岡山県瀬戸内市札崎古墳群出土
岡山県立博物館蔵

見どころ④

動物や小さな人など、

かわいい やきものが盛りだくさん！



205
広島県指定重要文化財
かめがたすえき
亀形須恵器
古墳 / 飛鳥時代（7世紀前半）
広島県安芸高田市一ツ町古墳出土
個人蔵



うしろ姿もかわいい♡

201
とりがたへい
鳥形瓶
古墳 / 飛鳥時代（7世紀）
岡山県岡山市宮浦東千川出土
大阪市立美術館蔵



196
そうしよくつきじほい
装飾付耳杯
古墳時代（6世紀）
和歌山県和歌山市井辺八幡山古墳出土
和歌山市蔵
(同志社大学歴史資料館保管)



192
とりそうしよくつきすえき
鳥装飾付須恵器
古墳 / 飛鳥時代（7世紀）
広島県北広島町石塚2号墳出土
広島県立歴史民俗資料館蔵



／ うつわの上では古代の物語が展開する ／

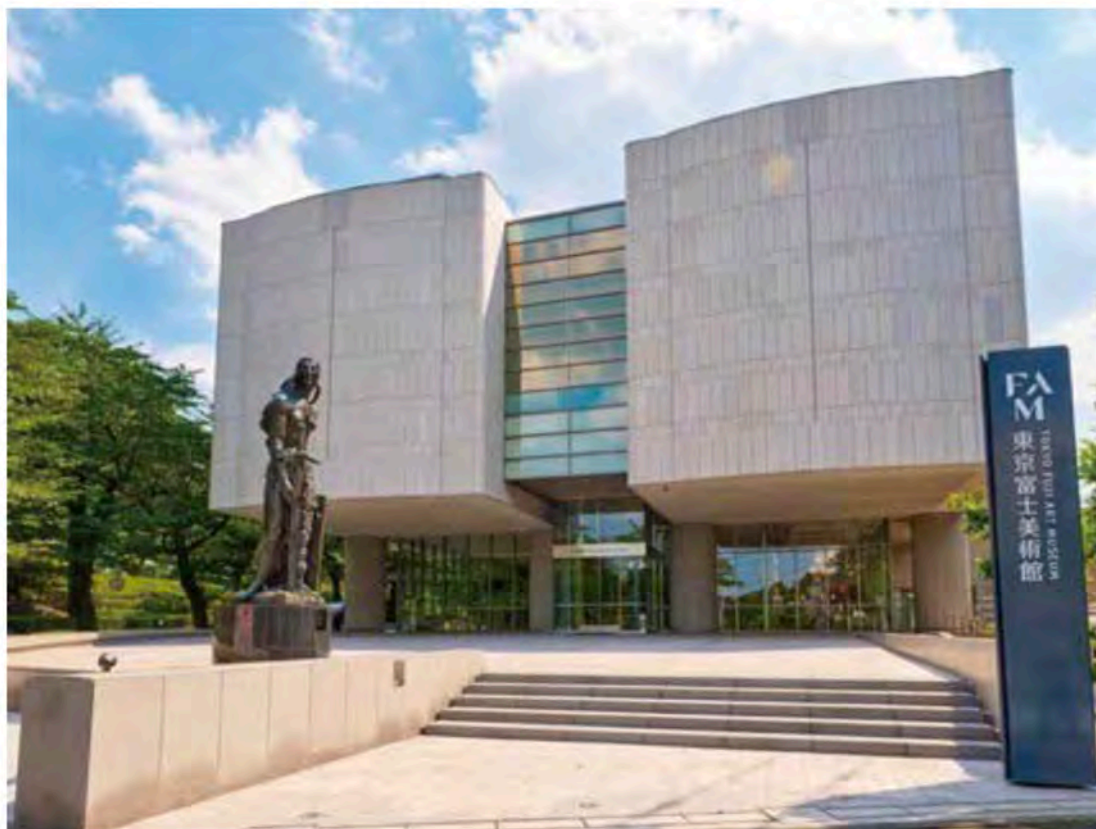
189
そうしよくつくだいつきつぽ
装飾付台付壺
古墳時代（6世紀）
大阪府茨木市南塚古墳出土
京都大学考古学研究室蔵
(大阪府立近つ飛鳥博物館保管)

東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。

コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。

「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。



問い合わせ先：TEL 042-691-4511 FAX 042-691-4623

E-mail: toiawase@fujibi.or.jp